



Title	カザフスタンにおけるウイグル人の文化人類学的研究 : 4人のカザフスタン・ウイグル人のライフストーリーを中心に
Author(s)	王, 雨寒
Citation	日本中央アジア学会報, 17, 26-27
Issue Date	2021-07-31
DOI	10.14943/jacas.17.26
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/89144
Type	article
File Information	JB017_004wang.pdf



[Instructions for use](#)

カザフスタンにおけるウイグル人の文化人類学的研究 — 4人のカザフスタン・ウイグル人のライフストーリーを中心に —

王 雨寒

本研究では、中央アジア地域、特に、カザフスタンに移住したウイグル人を対象に調査を行った。対象者の移住の歴史的背景、文化的変容の背景について、現地調査及びインタビューの資料を分析することで、中央アジアのウイグル・ディアスポラの移住の歴史、移住の原因、中央アジアのウイグル人社会の文化変容、更に、そうした歴史及び文化的な背景において、中央アジアのウイグル人がいかに文化やアイデンティティを構築・維持したのかという問題を検討するものである。

中国・新疆ウイグル自治区とカザフスタン、キルギススタン、タジキスタンとは、国境で接しており、長期的にみれば同じ歴史文化地域に属する。現在の中央アジアに居住するウイグル人は主に、19世紀の80年代に中央アジアに移住した中国・新疆イリ地域のタランチ人の後裔である。国境を越えた民族として、新疆と中央アジアのウイグル人は異なる国家で生活しているが、双方の言語と文化は通じ、同じ宗教を信仰し、文化的、経済的な交流が盛んである。

長い歴史を経て、中央アジアのウイグル人はすでに現実の社会環境と文化環境の中で変容してはいるが、ライフスタイル、モラル、伝統などの面では、それらがウイグル民族の主体と複雑に絡まり合っており、依然としてウイグル民族の独自の文化伝統と民族アイデンティティを保っている。その上で、周辺の民族に影響を与えているのである。

筆者は2018年と2019年に新疆ウイグル自治区のイリ地域及びカザフスタンのアルマトゥ州の二つの地域で計2ヵ月間、2回のフィールドワークを行なった。調査方法は、主に参与観察やインタビューなどである。参与観察では、主にカザフスタンのウイグル人の日常生活と民族の間の交際を調査した。その他、筆者はSNSでのインタビューも行った。2018年から2020年に、4名の調査対象にインタビューし、彼らのインターネット空間における生活を調べた。

本研究を進めるにあたって、筆者は4名のカザフスタンのウイグル人のライフストーリーを軸として扱うこととした。この4名は、文化・宗教実践の様相、カザフスタンへの思い、

故郷の認識、経済的基盤、居住地とそこでの経験がそれぞれ異なる男性と女性の各2名である。

本研究ではカザフスタンに居住する4人のウイグル人のライフストーリーをもとに、祖国を離れて生活する人々が移動を経験した／することによって、新たに創造される生活世界や自己意識の変容を描き出すことを目的とした。インタビュー資料をウイグル人の歴史的背景、文化的背景と結び付け、アイデンティティ研究の観点からウイグル人のライフストーリーを通じて、民族アイデンティティ、国家アイデンティティ、文化アイデンティティ及び異なる歴史段階でのウイグル人のアイデンティティの変化を分析した。

中央アジアのウイグル人は独特なアイデンティティを示している。つまり、中央アジアのウイグル人は強力な民族アイデンティティを持っており、自民族のコミュニティの構築・維持を重視し、ウイグル文化を自分の民族アイデンティティの重要な一部であると考えている。中央アジアのウイグル人は民族アイデンティティに基づく強力な集団意識を維持しており、そのことは彼らの民族文化、民族コミュニティの維持の核心的な要素である。強力な民族アイデンティティは、文化アイデンティティにも影響した。ウイグル人の文化アイデンティティはウイグル民族文化を中心に、日常生活での文化交流に影響されている。中央アジアのホスト社会におけるロシア文化と、移出国であって経済的に発展していることでより大きな影響力を持っている中国文化が、中央アジアのウイグル人の文化アイデンティティに影響を与える重要な要素である。このような多文化的環境において、中央アジアのウイグル人は「多元化」を特徴とする文化アイデンティティを形成した。政治体制の転換を何度も経験した地域に位置し、カザフスタンのウイグル人は、複雑な国家アイデンティティを示している。その特徴は、歴史的な時期の違いによって異なる国家アイデンティティを示すことである。すなわち、ウイグル人は中央アジアに移住した歴史が古く、ロシア帝国、ソ連、カザフスタンという国家の変遷を経験しているのである。また、移出国との文化、宗教、政治、経済的関係の維持により、ウイグル人の国家アイデンティティは多重性を持つものにみえる。ウイグル人は歴史的な時期の違いに応じて、国家アイデンティティだけでなく、文化アイデンティティについても、違いを示している。このような複雑性はウイグル民族コミュニティの構築・維持プロセスの解明において、ウイグル人のアイデンティティを検討することの重要性を意味するものだろう。

(北海道大学大学院文学院)